

2000年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度では、カナダ中部からノルウェー海、ロシア西部、モンゴル、太平洋北部では正偏差、ヨーロッパ、中央シベリア、北アメリカ西岸、北アメリカ東部では負偏差となった。亜熱帯ジェットは平年に比べて南北蛇行が大きく、ヨーロッパ付近では平年より強く、日本から太平洋にかけては平年よりも弱かった。対流活動はインド北部、インドシナ半島からフィリピンの東にかけてと日本の南で平年より活発であった。インド南部からベンガル湾にかけて不活発であった。アジアモンスーンに伴う対流活動は平年より強く、東偏していた。200 hPa 大規模発散場の中心はほぼ平年並の位置であった。200, 850 hPa の赤道域での顕著な東西風偏差は月後半から見られなくなった。SOI(南方振動指数)は-0.3であった。

世界の天候

①東・北日本の多雨

②日本からモンゴルの高温

中国北部のランチョウ(蘭州)で26.0°C(+3.9°C)。

③西日本から中国北部の少雨

中国北部のミンチン(民勤)で2 mm(12%)。中国北部や朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)では、先月に引き続き、干ばつや熱波の被害が伝えられた。

④インドネシアの高温

インドネシアのジャカルタで28.3°C(+1.2°C)。

⑤ノルウェーからアイスランドの少雨

⑥ヨーロッパ中部・東部の多雨

ルクセンブルグで197 mm(294%)。

⑦中東の高温

サウジアラビアのリヤドで38.4°C(+3.2°C)。

⑧ブルガリアからトルコの少雨

トルコのイズで37 mm(28%)。

⑨カナダ北部の高温

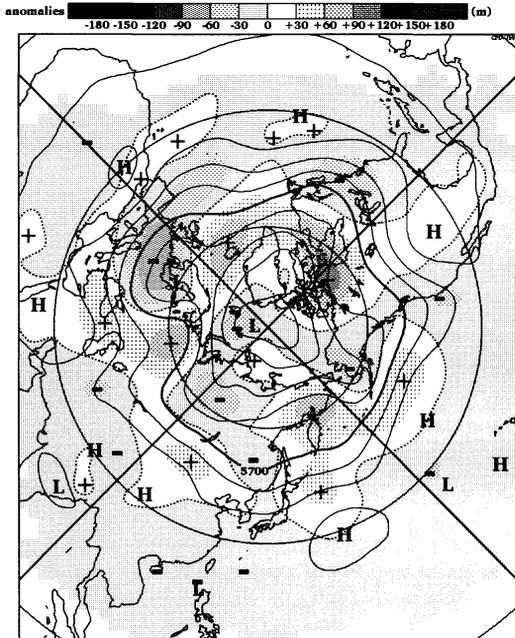
⑩米国東部の低温・多雨

米国東部のリッチモンドで23.6°C(-2.9°C)。

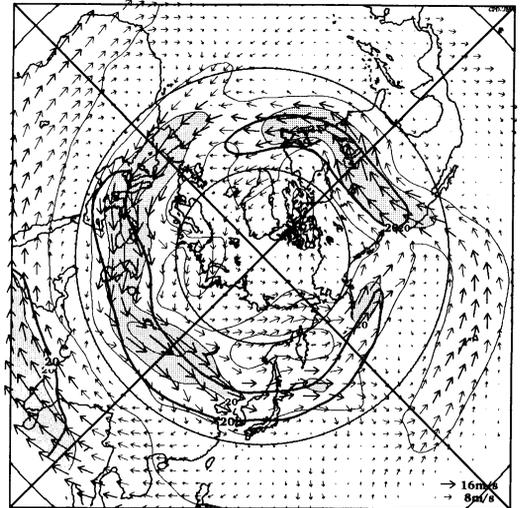
⑪南アメリカ中部の低温

アルゼンチンのファオルモサで12.6°C(-4.5°C)。アルゼンチンやブラジルなどでは、寒波により70人以上の死者が報じられた。

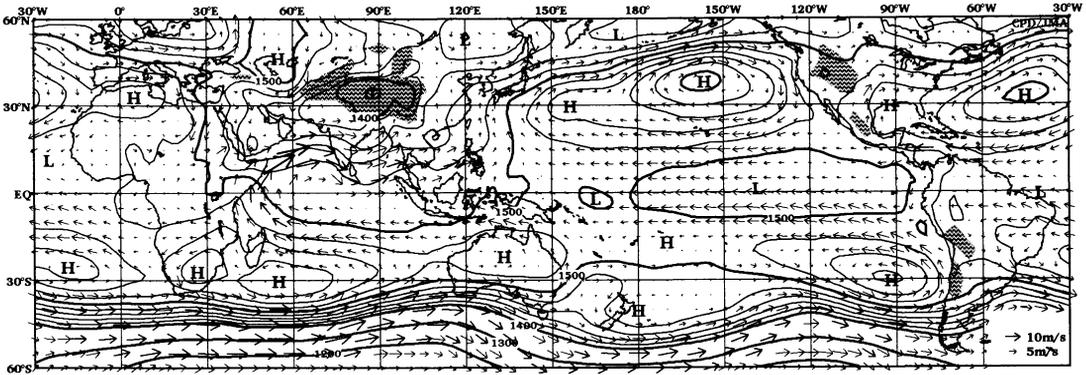
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 佐藤兼太郎)



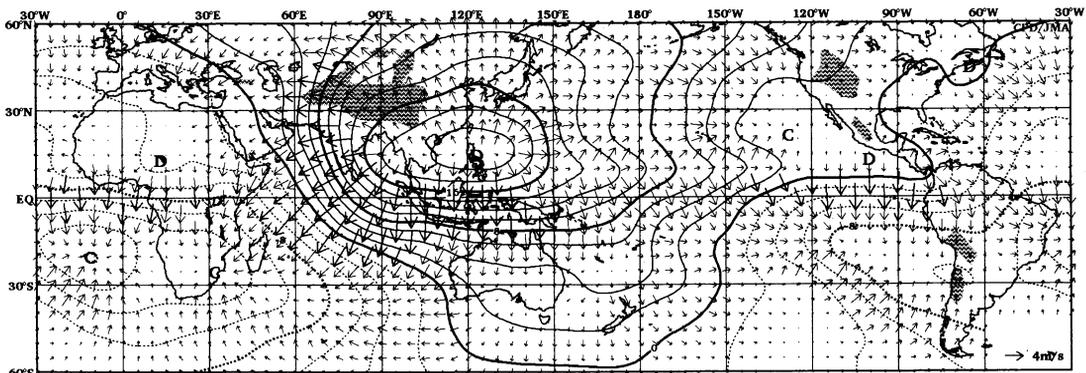
2000年7月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。



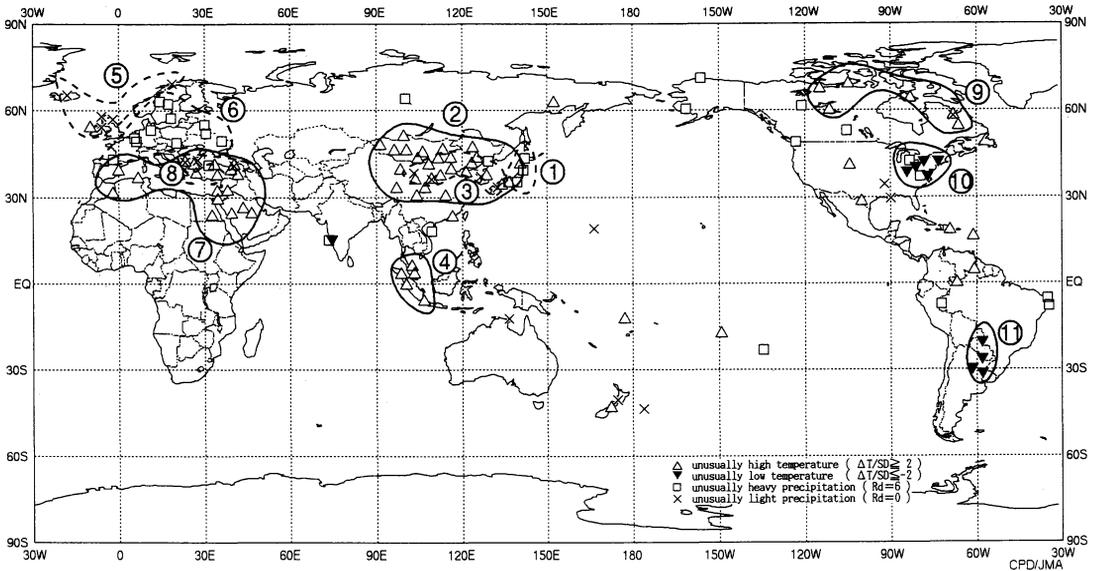
2000年7月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は平年で40 m/s以上, 平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



2000年7月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2000年7月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2000年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.